

渦霞 八雲巖略○中

長崎拳名家表附 大關 小牟田友助 關脇 木原榮次郎 小結 小牟田太次郎略○中 大關

平山太四郎 關脇 竹内喜平次 小結 西村喜藏略○中

國々名家拳 豊後日田 鍋屋半八 鍋屋甚三郎 京屋亦八 京屋爲三郎 鍋屋新太郎 羽

野養順 京屋小三郎 筑前博多 久理屋甚六 福田屋勘兵衛 弦屋半四郎 肥前佐嘉 西

村源兵衛 吉田勘兵衛 筑後若津 半治 榮藏 武三郎 肥後熊本 金屋清助 荒物屋新

吉 守口屋民八 菓子屋榮助 薩摩屋榮吉 肥前大村 清治郎 竹三郎 文治郎 久留米

大八島 藥八 八郎兵衛 紀州若山 服部 杜友 河庄 如月 竹久 新虎 歌扇 河

久 糸遊 紀三七 住保 岡新 粉武

拳會

〔拳會角力圖會上〕行司演舌之事

東西々々、此所にをきまして晴雨に拘はらず、一日拳會つかまつりまするところ、其沙汰よろま
うして、各々さまがた、御賑々まう御見物に御出くださり升るだんな、會元何某は申におよばず、
組中の銘々、かすなりませぬわたくしまで、いかばかりか大慶の色をなしたてまつる、またがつ
て左右の力者力鎊をかけまするあいだ、拳角力の故實をあらまし御耳に觸ます、皇のかしこき
御代の神あそび、四海太平、五穀豊饒の祭たり、天ひらけて四象あらはれ、陰陽あつて萬物せうす
中にも拳な末げいたりといへども、すこしく其規模をつたへ、角力となぞらへ、酒席のたすけと
なし、組うち手練のはまれをあらはすと、かや、爰に肥州長崎圓山開發のとき、彼所の青樓に唐人
あまたきたり、宴をまうけ遊女を招き、玉腕琥珀粲然とかざりたて、檻のまへには八珍をつらね
床の側には笙をならし、あるひはからうたを唱、こなたには金鼓をた、き、喇叭をふき、意氣を勵
まし、チンタ蒲萄の美酒をす、む、酒闌はにおよぶのころ、唐人左右にわかれ、禮儀正しく、上より